

総合診療室（総診）を経験して

総合診療部を経験して

歯科総合診療部 研修医 伊藤 崇史



まさか自分が歯学部
ニュースの原稿を書くこと
になるとは夢にも思っても
みません。いや、むしろ
夢なんじゃないかと思って
お酒に逃げたりもしました
が、初心を思い出すいい

チャンスだと言いつけ、学生として去年1年間、
そして研修医として今総合診療部で経験している
ことを書いていこうと思います。

早いもので、期待と不安を抱え、5年の秋に初めて患者様の診療を始めてからもう2年近く経ちます。あの頃は診療のみならず、カルテの書き方、係の仕事など分からないことが多く、患者様を含め様々な方々にご迷惑をおかけしました。診療前にはライターの先生にアドバイスを頂き、予習をして診療にのぞむのですが、自分の技術のなさや知識のなさで改めて気づき、反省の日々でした。そんな中でも優しく気遣ってくださり、診療後にはありがとうございましたと患者様から声をかけていただく度に、感謝すると同時にもっと頑張らないといけないなと思いました。また、総合診療部では各診療科の先生がライターをしてくださり、様々なことを学ぶことが出来ました。改めて今考えるととても贅沢な環境で、もっと最大限にいかせれば良かったなと感じますが、学生でありながら恵まれた環境の中で患者様の診療をさせていただき、診療技術だけでなく患者様とのコミュニケーションの重要性等も学べた1年間でした。

臨床実習を経て、研修医として今も総合診療部

で診療させていただいてますが、臨床実習の1年間、実際に診療を行っていたというのはとても強みになっています。研修医の今は学生の時よりも診療時間が減り1日あたりの患者数が増えるため、予習段階でのイメージトレーニングや診療中の手際がとても重要になってきます。ライターの先生もどうしようもなくなったときには助けてくれますが、学生の頃よりも任せてもらえる部分が多いためとても楽しく、そしてなるべく自分で解決しようとするために少しは臨機応変に対応できるように became した気がします。

研修医には技工係といって上級医にアシストをする係があるのですが、これは先生の技を盗むチャンスで、手技だけでなく、患者説明など先生方が何気なくやっている診療のヒントが学べます。また、研修医は2人1組で診療しており、去年と同じように1人でいいのでは……と最初は正直少しわづらわしく思っていたのですが、実際は自分の患者様とは違った患者様の状態や治療などを一緒に経験できるのでとても勉強になっています。

今研修をしていて、総合診療部を研修先に選んで本当に良かったと思います。上級医の先生方や技工士の先生方に教えていただきながら1年間、しっかりと患者様と向き合っていけることはとても素晴らしいことです。油断していると時間はあっという間に経ってしまいますので、せっかくこの1年間を無駄にしないようこれからも目標をもっていろんなことを吸収して日々努力していきたいと思っています。

最後になりますが、お世話になっている先生方、一緒に学んだり飲んだりの研修医仲間、山形で頑張ってる富樫君、そして患者様に心からお礼を申し上げます。

総合診療部を体験して

歯科総合診療部 研修医 平山 恵美子

2011年3月に卒業し、現在総合診療部の研修医としてお世話になっております、平山恵美子です。卒業研修が始まり4ヶ月が経とうとしています。早くも壁にぶつかり、研修医仲間や、上級医の先生方、時に6年生にまで励ましてもらい、スタッフの皆さんに迷惑をかけつつも一生懸命研修させてもらっている毎日です。ですが、これも治療が必要な患者様を多く担当する機会を与えていただいているからこそ、いつも貪欲に技術を磨きたいという気持ちにさせてくれます。そして今の研修に対する高いモチベーションは、学生時代に経験させていただいた総合診療室での一年があったからこそだと感じています。

総合診療室での臨床実習は5年生の秋に始まりました。実習当初は、処置をする右手の手に集中し、ミラーやバキュームを持つ左手のことを考える余裕はありませんでした。時に患者様に「痛いですが……」と言われ、友達の診療からもいろいろ吸収しつつ、半年程度経つと一つ一つの操作に自信がついてくるだけでなく、ミラーやバキュームを持つ左手にも気を遣えるようになってきました。「このバキュームの入れ方は痛くないはず」など患者様の立場を考えた診療を心掛けられるようになりました。

少し余裕を持って診療ができるようになり視野が広がってきたせいか、モチベーションにも変化がみられました。実習当初は、卒業のためのミニマムリクワイアメントを達成することばかりが頭にあり、患者様主体の診療について考えることが

難しいこともありましたが、徐々にミニマムリクワイアメントだけでなく「患者様の為にどうしたらよいのか？」を中心に治療をすすめられるようになりました。総合診療室では学生とはいえ、患者様を担当する責任ある医療人の一人でもあります。患者様を担当させていただくことで、高い責任意識が育つのもかもしれません。総合診療室を経験したことで、マネキンのシミュレーション実習では得られない何かをつかむことができたと思っています。

たった一年でしたが、長くもあつた臨床実習において少しずつ成長できたのは、根気強く指導してくださった先生方のみならず、実習に協力してくださった患者様の存在が大きいです。一回の診療に3時間以上かかってしまうこともありましたが、いつも「ありがとう」とおしゃってくださったことや、「私の歯が悪いから……」と気を遣っていただいたこと、ありきたりですがこの時感じた思い「初心」を忘れずにいたいです。また、総合診療室では自分の診療以外にも、ライターの先生方や、アシスタント（支援）に入った友達の診療から学ぶことが多かったように思います。今の研修でも、自分の診療以外から学ぶことが非常に多いため、上級医の先生方のアシスタントを積極的に行っています。総合診療部は多くのスタッフがいますので、人から学ぶということに関しても非常に恵まれている環境だと感じます。今は新しい処置に直面すると、処置を行う手先にしか意識が集中できていませんが、学生の時にそうだったように徐々に意識、視野が広がればと思います。学生時代の総合診療室での臨床実習があつてこそ今があるのだなと実感している今日この頃です。